

## Q 子どもの食がピンチ

いしづか せつこ  
石塚 節子 議員



## A 子どもたちが安心して食べられるような鶴ヶ島にしていく

「児童は、人として尊ばれる。児童は、社会の一員として重んぜられる。児童は、よい環境のなかで育てられる。」と宣言した児童憲章制定から今年で70周年。食の欠乏、虐待やいじめなど、社会の一員として重んぜられるどころか、人権や命を脅かされる現実がある。昨年自ら命を絶った児童・生徒は全国で499人。生活困窮家庭では給食のない夏休みに子どもに満足な食事を食べさせられない家庭もあるという。

**問** 支援が必要な家庭の子どもへの食の支援は。

**答** 子ども応援サイトを活用して食材や弁当を提供し、支援を行っている。食材は月に1回から3回、弁当は月に1回程度、



25から40家庭に配布している。**問** 児童・生徒の自殺対策は。  
**答** 授業等を通して、命の大切さを気づかせることが重要である。また、児童・生徒には、不安や悩みは一人で悩まず、誰かに相談するよう指導している。各校にスクールカウンセラーなどを配置し、いつでも相談できる環境を整えている。

**問** 給食費無償又は補助を行っている自治体は。

**答** 県内では、4町村が無償化、補助は15市町で実施している。

## Q 地域産業、地域経済活性化に向けた取組

うちの  
内野 嘉広 議員



## A 憩いの場、にぎわいの場の創出も一つの手法と考える

**問** 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う本市の地域経済対策について。

**答** 昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策事業者支援事業、新型コロナウイルス感染症対策緊急特別融資事業、地域事業者クーポン応援事業を実施した。本年度は8月に新型コロナウイルス

**問** 新型コロナウイルス感染症対策地域経済活性化ポイント還元事業を実施した。

**答** 新型コロナウイルス感染症収束後における地域産業の活性化に向けた取組について。

**問** 今回の事態により、大きな影響を受けた市内事業者を重点的に支援していく。国や県が行う広範な救い上げをサポートし



鶴ヶ島駅西口商店会（サマーカーニバルの様子）

ながら、その網から漏れる事業者への救済や地域での循環に特化した独自の経済施策を検討していく。

**問** 株式会社関水金属と鶴ヶ島駅の間を起終点とした導線への民間活力を活用した取組について。

**答** 株式会社関水金属の工場移転に併せて、市内企業との連携、地域資源を活用した新たな魅力の創出、商店街の活性化などを含めながら、工場移転や工場周辺の整備を核とした、鶴ヶ島駅周辺のまちづくりの方向性について、構想などを考えていく。